

令和2年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第五類（人間形成基礎系）心理学系コース〕

プログラムの名称(和文)	心理学プログラム
(英文)	Psychology program
1. 取得できる学位 学士（心理学）	
2. 概要 【どんな人材を育成しているか】 より複雑になり、混迷している現代社会では、心に関連したさまざまな問題が生じています。心理学プログラムでは、そのような問題を解決できる人材を育成しています。すなわち、心の仕組みや働きについてよく理解しており、心に関する問題を発見することができ、それを解決することのできる人材です。 【何を身につけられるか】 本プログラムでは、大きく分けて以下の2つを身につけることができるようになっています。 <ul style="list-style-type: none"> ・心理学の広範な知識：認知・学習・社会・教育・発達・臨床心理学といった、心理学の主要な領域の知識を広範囲に得ることができる。 ・心理学の研究手法や技能：人間の心について理解し、研究を深めるために必要なさまざまな方法・技能を修得できる。 	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 心理学プログラムでは、複雑化、混迷化が進む現代社会で生じる人間の心や行動に関連したさまざまな問題を解決できる人材を育成します。すなわち、心の仕組みや働きについてよく理解し、人間の心や行動に関する問題を発見することができ、それを解決することのできる人材です。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（心理学）」の学位を授与します。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間の認識や情報処理の仕組み、人間関係や社会の中で生きる人間、人間の学習や教育、心の成長のプロセス、心の悩みや適応への援助の仕方、脳や身体と心の関係などに関して多様な知識を持ち、心の仕組みや働きを理解し、実社会において生じる心や行動の問題の解決のための基礎となる知識や技能を身につけている。 (2) 心の測定法やデータの収集・分析などの方法を習得し、論理的に考え合理的に判断できる。 (3) 上に挙げた方法・技能を、研究活動として実践できる。また、研究の過程や成果を表現したり、さまざまな他者と情報を交換したりすることができる。 (4) 人間に関する知の蓄積に立脚し、事実に基づきながら新たな知を探究できる。 	

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

心理学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、人間の心の仕組みや働きを理解し、心の測定法やデータの収集・分析などの方法を修得し、それらを実践し新たな知の探求ができるための基礎を育成します。また、実社会において生じる心や行動の問題の解決のための基礎となる知識や技能を育成します。そのために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

心理学プログラムの教育課程は、（公益社団法人）日本心理学会が認定する「認定心理士」、「認定心理士（社会調査）」の申請に必要な科目、並びに公認心理師法施行規則（平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号）において大学における公認心理師となるために必要な科目として示された科目を充たすものです。

1年次には、「心理学概論A・B」、「英語」、「大学教育入門」などの教養教育科目や「心理学概論」を履修して専門教育の基礎づくりを行うとともに、「心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修し、心理学の研究を体験し、心の測定法やデータの収集・分析などの基礎的な方法を身につけます。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修するとともに、「知覚・認知心理学」、「学習・言語心理学」、「社会・集団・家族心理学」、「教育・学校心理学」、「発達心理学」、「臨床心理学概論」などを履修し、心の仕組みや働きを理解するための標準的な知識を身につけます。また、「心理学研究法」、「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」、「心理社会調査法」などの研究法科目を履修し、人間の心について理解するための方法・技能を身につけます。

3年次には、心理学の各領域の特論として、「神経・生理心理学」、「対人心理学」、「教育相談」、「児童・青年期発達論」、「乳幼児心理学」、「障害者・障害児心理学」などを履修し、心の仕組みや働きを理解するための発展的・応用的な知識を身につけます。

3-4年次には、学士課程のまとめとして、実際に心理学が使われている複数の職場を見学する「心理実習Ⅰ・Ⅱ」や、研究を遂行する能力・技能を身につけるために「心理学実験」及び「課題研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し、現代社会における人間の心や行動に関する問題解決への意欲や態度を形成します。

また、2-3年次にかけて、心理学の実践・応用領域や関連領域の科目として、「心理学的支援法」、「健康・医療心理学」、「福祉心理学」、「司法・犯罪心理学」、「精神疾患とその治療」、「関係行政論」などの科目を履修し、実社会において生じる心や行動の問題の解決に寄与するための知識・技能を身につけます。

学修の成果は、各科目の成績評価とともに本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

- ・教育学部第五類心理学系コースに入学した学生は、原則として1セメスターから心理学プログラムを開始します。
- ・他学部・他コースの学生が、転学部・転コースにより心理学プログラムへの参加を希望する場合の開始時期や参加するために満たさなければならない条件などは、別に定めます。

6. 取得可能な資格

必要な単位を修得し、(公益社団法人)日本心理学会に申請することにより「認定心理士」,「認定心理士(社会調査)」の資格を得ることができます。

公認心理師法施行規則(平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号)において大学における公認心理師となるために必要な科目として示された科目を修めることができます。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

- 教養教育科目 : 大学教育基礎科目, 心理学概論 A, 心理学概論 B などの領域科目, 外国語科目など
- 専門基礎科目(研究法) : 心理学基礎実習 I・II・III・IV, 心理学統計法 I・II, 心理学研究法, 心理社会調査法, 心理的アセスメントなど
(外書講読) : 心理学外書講読演習 I・II・III・IV
- 専門科目(心理学概論) : 心理学概論
(領域概論) : 知覚・認知心理学, 学習・言語心理学, 社会・集団・家族心理学, 教育・学校心理学, 発達心理学, 臨床心理学概論
(領域特論) : 神経・生理心理学, 対人心理学, 生徒・進路指導論, 児童・青年期発達論, 乳幼児心理学, 教育相談, 感情・人格心理学, 障害者・障害児心理学
(実践・応用領域特論) : 公認心理師の職責, 心理学的支援法, 健康・医療心理学, 福祉心理学, 司法・犯罪心理学, 産業・組織心理学, 心理演習, 心理学実習 I・II, 人体の構造と機能及び疾患, 精神疾患とその治療, 関係行政論
(研究法演習) : 心理学実験, 認知心理学課題研究 I・II, 学習心理学課題研究 I・II, 社会心理学課題研究 I・II, 教育心理学課題研究 I・II, 発達心理学課題研究 I・II, 臨床心理学課題研究 I・II
- 卒業研究 : 卒業論文
- 専門選択科目, 自由選択科目 : 学生の選択による

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀 (Excellent)」,「優秀 (Very Good)」,「良好 (Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀：90点以上)	4
A (優：80～89点)	3
B (良：70～79点)	2
C (可：60～69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀 (Excellent)	3.00～4.00
優秀 (Very Good)	2.00～2.99
良好 (Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

【知識・理解】

1) 心の仕組みや働きに関する標準的知識

認知心理学領域の標準的知識

学習心理学領域の標準的知識

社会心理学領域の標準的知識

教育心理学領域の標準的知識

発達心理学領域の標準的知識

臨床心理学領域の標準的知識

その他，自然科学，人文科学，社会科学などに関する知識（教養教育）

2) 心の仕組みや働きに関する発展的知識

認知心理学領域の発展的知識

学習心理学領域の発展的知識

社会心理学領域の発展的知識

教育心理学領域の発展的知識

発達心理学領域の発展的知識

臨床心理学領域の発展的知識

その他，各学問領域における研究の最前線，文化・社会との関わりなどに関する知識（教養教育）

3) 心の仕組みや働きに関する実践・応用的知識

公認心理師の職責に関する知識

心理学的支援法，健康・医療心理学，福祉心理学，産業・組織心理学などの応用的知識

関連領域の知識（人体の構造と機能及び疾患，精神疾患とその治療，関係行政論）

心理実習（心理の職場見学実習など）を通じたキャリア教育

【能力・技能】

1) 文献や資料を理解し，批判的に評価する基本的能力・技能

内容を正確に理解する基本的能力・技能（教養教育の外国語を含む）

内容を批判的に評価する基本的能力・技能

2) 科学的な研究方法の理解，及び研究を実施するために必要な基本的能力・技能

科学的方法の特徴の理解

心理学的測定に関する基本的能力・技能
心理統計法に関する基本的能力・技能
心理実験法に関する基本的能力・技能
心理社会調査法に関する基本的能力・技能
心理的アセスメントに関する基本的能力・技能
その他、情報活用などの基本的能力・技能（教養教育）

3) 臨床や実社会に心理学を活用する能力・技能

心理学的支援法に関する基本的能力・技能
心理演習や心理実習を通じた臨床場面に必要な基本的能力・技能

【総合的な力】

- 1) 心の仕組みや働きに関する研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する能力・技能
- 2) 研究課題について、適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能
実験法、調査法、検査法に基づいて資料・データを収集する能力・技能
記述統計、推測統計の基本的手法を、収集した資料に適用する能力・技能
- 3) 研究の過程と成果を表現したり評価したりする能力・技能
研究の過程と成果を、口頭および論文で公表する能力・技能
自分や他者の発表を批判的に評価する能力・技能
- 4) 現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度

9. 卒業論文（卒業研究）

心理学プログラムの到達目標である「心の仕組みや働きに関する知識」に基づき、「人間の心について理解するための方法・技能」を用いて、各自の研究テーマを発見し、研究を実施する。研究を実践する能力・技能および研究に取り組む意欲・態度の形成を目指している。その達成度を総合的に評価する。

【配属方法と配属時期】

- ・配属時期：6セメスター開始時に卒業論文の指導教員を決定する。
- ・配属方法：学生は、「心理学概論」「心理学研究法演習」などで提供される各教員の研究テーマや指導可能な研究内容等の情報に基づき、卒業論文で実施したい研究内容とともに希望する指導教員を届け出る。学生の希望をできるだけ尊重するが、人数の偏りが大きい場合には、調整を行う。

10. 責任体制

PDCA責任体制（計画 (plan)・実施 (do)・評価 (check)・改善 (action)）

- ・計画、実施、評価検討、および対処は心理学プログラム教員会が行う。責任者は、心理学系コース主任である。
- ・教育学部の担当組織などによる外部評価を実施する。
- ・対処については、心理学プログラム教員会のみでなく、教育学部長等も責任をもって対応する。

教養教育科目履修基準表

第五類 心理学系コース（心理学プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)												
						1年次		2年次		3年次		4年次						
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
教養教育科目	平和科目	2		2	選択必修	○												
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○											
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○											
	領域科目	人文社会科学系科目群	4	心理学概論A(注4)	2	必修	○											
			4	心理学概論B(注4)	2		○											
	自然科学系科目群	4		1又は2	選択必修	○	○	○	○									
		外国語科目 (注2)	英語	6	コミュニケーション基礎 I	1	選択必修	○										
	コミュニケーション基礎 II				1	○												
	コミュニケーション I A				1	○												
	コミュニケーション I B				1	○												
	コミュニケーション II A				1			○										
	コミュニケーション II B				1			○										
	上記6科目から2科目以上																	
		(0)	コミュニケーション上級英語	1	自由選択	○	○											
		(0)	初修外国語	1	自由選択	○	○											
		(0)	情報・データサイエンス科目	2	自由選択	○												
		(0)	健康スポーツ科目	1又は2	自由選択	○	○											
	(0)	社会連携科目	1又は2	自由選択	○	○												
	(0)	基盤科目	1～3	自由選択	○	○	○	○										
	12	(注5)	1～3	選択必修	○	○	○	○										
	計	32																

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：時間割編成の都合上、1セメスターは「心理学概論A」が、2セメスターは「心理学概論B」が指定されている。

注5：領域科目、外国語科目、情報・データサイエンス科目、健康スポーツ科目、社会連携科目、基盤科目を対象とする。

注6：教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」2単位、情報・データサイエンス科目2単位、健康スポーツ科目2単位を修得する必要がある。情報・データサイエンス科目は、1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」で代替することができる。

学部履修基準

第五類（人間形成基礎系）

○ 心理学系コース（心理学プログラム）

科目区分等			要修得単位数	
教養教育	平和科目		2	
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	
		教養ゼミ	2	
	共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群	4
			自然科学系科目群	4
		外国語科目	英語	6
			初修外国語	(0)
		情報・データサイエンス科目	(0)	
		健康スポーツ科目	(0)	
	社会連携科目	(0)		
基盤科目		(0)		
自由選択科目		12		
専門教育	専門基礎科目		16	
	専門科目		32	
	専門選択科目		28	
	卒業論文		6	
自由選択科目		14		
合計			128	

専門教育科目履修基準

第五類 心理学系コース (心理学プログラム)

履 修 内 容		要 修 得 単 位 数		開 設	
専門基礎科目	研究法	心理学基礎実習Ⅰ	1	16	心理学系コース
		心理学基礎実習Ⅱ	1		
		心理学基礎実習Ⅲ	1		
		心理学基礎実習Ⅳ	1		
		心理学統計法Ⅰ	2		
		心理学統計法Ⅱ	2		
	選択科目	4			
外書講読		4			
専門科目	概論・領域概論		12	32	
	領域特論		10		
	実践・応用領域特論		6		
	研究法演習	心理学実験	2		
		選択科目	2		
専門選択科目		28	教育学部ほか		
卒業論文		6	心理学系コース		
自由選択科目		14	教育学部ほか		

<履修上の注意>

『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、28単位まで認める。

第五類 心理学系コース（心理学プログラム）

開設単位数欄の○印数字は必修
履修セメスター欄の○印は標準履修セメスター
備考欄の◎は、公認心理師になるために
必要な科目を示す。

区分	授業科目	開 単 位 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 基 礎 科 目	研 究 法	心理学基礎実習Ⅰ	①	○									
		心理学基礎実習Ⅱ	①	○									
		心理学基礎実習Ⅲ	①		○								
		心理学基礎実習Ⅳ	①		○								
		心理学統計法Ⅰ	②			○							◎
		心理学統計法Ⅱ	②				○						
		心理学研究法	2			○							◎
		心理社会調査法	2				○						
		心理的アセスメント	2				○						◎
	外 書 講 読	心理学外書講読演習Ⅰ	①			○							
		心理学外書講読演習Ⅱ	①			○							
		心理学外書講読演習Ⅲ	①				○						
		心理学外書講読演習Ⅳ	①				○						
専 門 科 目	概 論 ・ 領 域 概 論	心理学概論	2		○								◎
		知覚・認知心理学	2				○						◎
		学習・言語心理学	2				○					幼児、児童及び生徒の心身の 発達及び学習の過程	◎
		社会・集団・家族心理学	2				○						◎
		教育・学校心理学	2					○				幼児、児童及び生徒の心身の 発達及び学習の過程	◎
		発達心理学	2					○				〃	◎
	領 域 特 論	臨床心理学概論	2				○						◎
		神経・生理心理学	2						○				◎
		対人心理学	2							○			
		児童・青年期発達論	2						○			幼児、児童及び生徒の心身の 発達及び学習の過程	
		乳幼児心理学	2						○			〃	
		生徒・進路指導論	2							○		生徒指導の理論及び方法、 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	
		教育相談	2							○		教育相談	
		感情・人格心理学	2							○			◎
障害者・障害児心理学	2							○			◎		

心理学プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 心の仕組みや働きに関する標準的知識を身につける	心理学の各領域に関する標準的知識とそれらが得られた方法を理解しており、それらを活用して問題解決的思考ができる。	心理学の各領域に関する標準的知識とそれらが得られた方法を理解している。	心理学の各領域の標準的知識が身についている。
	(2) 心の仕組みや働きに関する発展的・応用的知識を身につける	心理学の各領域に関する発展的・応用的知識とそれらが得られた方法を理解しており、それらを活用して問題解決的思考ができる。	心理学の各領域に関する発展的・応用的知識とそれらが得られた方法を理解している。	心理学の各領域の発展的・応用的知識が身についている。
能力・技能	(1) 文献や資料を理解し、批判的に評価する基本的能力・技能を身につける	文献や資料の内容を正確に理解し、問題点とその解決方法を指摘することができる。	文献や資料の内容を正確に理解し、問題点を指摘することができる。	文献や資料の内容を正確に理解することができる。
	(2) 研究を実施したり、実践・応用したりするために必要な基本的能力・技能を身につける	統計法、実験法、調査法、検査法を体験的に学習し、身につけた基本的技能を新しい課題や実践の場に適用することができる。	統計法、実験法、調査法、検査法を体験的に学習し、研究や実践・応用のための基本的技能を身につけている。	統計法、実験法、調査法、検査法における基本的技能を体験的に学習している。
総合的な力	(1) 心の仕組みや働きに関する研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する能力・技能を身につける	独力で、適切な研究計画を立案することができる。	指導教員等による多少の援助があれば、適切な研究計画を立案することができる。	指導教員等の援助によって、適切な研究計画を立案することができる。
	(2) 研究課題について適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能を身につける	実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を独力で適切に実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を独力で正しく適用することができる。	指導教員等による多少の援助があれば、実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を正しく適用することができる。	指導教員等の援助によって、実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を正しく適用することができる。
	(3) 研究の過程と成果を表現したり評価したりする能力・技能を身につける	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で的確に、かつ魅力的に公表でき、自分や他者の発表を批判的に評価し、改善方法を指摘することができる。	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で的確に公表し、自分や他者の発表を批判的に評価することができる。	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で公表し、自分や他者の発表を評価することができる。
	(4) 現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度を身につける	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されており、どのような行動をとるべきかを理解している。	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されており、どのような行動をとるべきかを考えている。	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されている。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

心理学の専門教育に進む準備として、人や社会を多様な視点から見ることができる基盤的な知識と外国語や問題解決型の学習能力、情報活用能力等の知的スキルの獲得をめざす。

1) 領域科目
人間の心を理解するための前提として自然科学、人文科学、社会科学などの知識を獲得する。また、心理学の概論的知識を得るために、領域科目のうち、「心理学概論A」「心理学概論B」は必修科目である。

評価項目と授業科目との関係

科目区分	授業科目名	単位数	必修・ 選択 区分	開設期	評価項目																科目中 の評価 項目の 総加重 値
					知識・理解				能力・技能				総合的な力								
					(1)		(2)		(1)		(2)		(1)		(2)		(3)		(4)		
					科目中 の評価 項目の 加重値	評価項 目中の 加重値															
教養教育科目	大学教育入門	2	必修	1					100	1											100
	教養ゼミ	2	必修	1					50	1	50	1									100
	心理学概論A	2	必修	1	100	1															100
	心理学概論B	2	必修	2	100	1															100
	英語	2	必修	1・2					100	1											100
英語	4	選択必修	1・2					100	1											100	
専門基礎科目	心理学基礎実習Ⅰ	1	必修	1						100	1										100
	心理学基礎実習Ⅱ	1	必修	1						100	1										100
	心理学基礎実習Ⅲ	1	必修	2						100	1										100
	心理学基礎実習Ⅳ	1	必修	2						100	1										100
	心理学統計法Ⅰ	2	必修	3						100	1										100
	心理学統計法Ⅱ	2	必修	4						100	1										100
	心理学研究法	2	選択必修	3						100	1										100
	心理社会調査法	2	選択必修	4						100	1										100
	心理的アセスメント	2	選択必修	4						100	1										100
	心理学外書講読演習Ⅰ	1	必修	3					100	1											100
	心理学外書講読演習Ⅱ	1	必修	3					100	1											100
	心理学外書講読演習Ⅲ	1	必修	4					100	1											100
心理学外書講読演習Ⅳ	1	必修	4					100	1											100	
専門科目	心理学概論	2	選択必修	2	100	1															100
	知覚・認知心理学	2	選択必修	4	100	1															100
	学習・言語心理学	2	選択必修	3	100	1															100
	社会・集団・家族心理学	2	選択必修	3	100	1															100
	教育・学校心理学	2	選択必修	4	100	1															100
	発達心理学	2	選択必修	4	100	1															100
	臨床心理学概論	2	選択必修	3	100	1															100
	神経・生理心理学	2	選択必修	5			100	1													100
	対人心理学	2	選択必修	6			100	1													100
	児童・青年期発達論	2	選択必修	5			100	1													100
	乳幼児心理学	2	選択必修	5			100	1													100
	生徒・進路指導論	2	選択必修	4			100	1													100
	教育相談	2	選択必修	6			100	1													100
	感情・人格心理学	2	選択必修	6			100	1													100
	障害者・障害児心理学	2	選択必修	6			100	1													100
	公認心理師の職責	2	選択必修	2	100	1															100
	心理学的支援法	2	選択必修	6							100	1									100
	健康・医療心理学	2	選択必修	4			100	1													100
	福祉心理学	2	選択必修	3			100	1													100
	司法・犯罪心理学	2	選択必修	3			100	1													100
	産業・組織心理学	2	選択必修	3			100	1													100
	人体の構造と機能及び疾病	2	選択必修	3			100	1													100
	精神疾患とその治療	2	選択必修	4			100	1													100
	関連行政論	2	選択必修	3			100	1													100
	心理演習	2	選択必修	5							100	1									100
	心理実習Ⅰ	1	選択必修	6							100	1									100
	心理実習Ⅱ	1	選択必修	7							100	1									100
	心理学実験	2	必修	5									30	1	35	1	35	1			100
	心理学研究法演習	2	選択必修	5							100	1									100
	認知心理学課題研究Ⅰ	1	選択必修	6									25	1	25	1	25	1	25	1	100
	学習心理学課題研究Ⅰ	1	選択必修	6									25	1	25	1	25	1	25	1	100
	社会心理学課題研究Ⅰ	1	選択必修	6									25	1	25	1	25	1	25	1	100
教育心理学課題研究Ⅰ	1	選択必修	6									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
発達心理学課題研究Ⅰ	1	選択必修	6									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
臨床心理学課題研究Ⅰ	1	選択必修	6									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
認知心理学課題研究Ⅱ	1	選択必修	7									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
学習心理学課題研究Ⅱ	1	選択必修	7									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
社会心理学課題研究Ⅱ	1	選択必修	7									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
教育心理学課題研究Ⅱ	1	選択必修	7									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
発達心理学課題研究Ⅱ	1	選択必修	7									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
臨床心理学課題研究Ⅱ	1	選択必修	7									25	1	25	1	25	1	25	1	100	
卒業研究	卒業論文	6	必修									25	1	25	1	25	1	25	1	100	

心理学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	心の仕組みや働きに関する標準的知識を身につける	心理学概論A(◎)	心理学概論B(◎)	学習・言語心理学(○)	知覚・認知心理学(○)				
			心理学概論(○)	社会・集団・家族心理学(○)	教育・学校心理学(○)				
			公認心理師の職責(○)	臨床心理学概論(○)	発達心理学(○)				
	心の仕組みや働きに関する発展的・応用的知識を身につける			福祉心理学(○)	生徒・進路指導論(○)	神経・生理心理学(○)	対人心理学(○)		
				司法・犯罪心理学(○)	健康・医療心理学(○)	児童・青年期発達論(○)	教育相談(○)		
				産業・組織心理学(○)	精神疾患とその治療(○)	乳幼児心理学(○)	障害者・障害児心理学(○)		
能力・技能	文献や資料を理解し、批判的に評価する能力・技能を身につける	大学教育入門(◎)	英語(◎, ○)	心理学外書講読演習Ⅰ(◎)	心理学外書講読演習Ⅲ(◎)				
		英語(◎, ○)		心理学外書講読演習Ⅱ(◎)	心理学外書講読演習Ⅳ(◎)				
		教養ゼミ(◎)							
	研究を実施したり、実践・応用したりするために必要な基本的能力・技能を身につける	教養ゼミ(◎)	心理学基礎実習Ⅲ(◎)	心理学統計法Ⅰ(◎)	心理学統計法Ⅱ(◎)	心理演習(○)	心理学的支援法(○)	心理実習Ⅱ(○)	
		心理学基礎実習Ⅰ(◎)	心理学基礎実習Ⅳ(◎)	心理学研究法(○)	心理社会調査法(○)	心理学研究法演習(○)	心理実習Ⅰ(○)		
		心理学基礎実習Ⅱ(◎)			心理的アセスメント(○)				
総合的な力	心の仕組みや働きに関する研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する能力・技能を身につける					心理学実験(◎)	課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)
	研究課題について、適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能を身につける					心理学実験(◎)	課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)
	研究の過程と成果を表現したり評価したりする能力・技能を身につける					心理学実験(◎)	課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)
	現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度を身につける						課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

心 理 学 プ ロ グ ラ ム 担 当 教 員 リ ス ト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
石田 弓	教授	6776	A703	ishiyumi@
杉村 和美	教授	6882	A812	ksugimura@
杉村 伸一郎	教授	6886	B712	shinsugi@
中條 和光	教授	6777	A813	kchujo@
服巻 豊	教授	6769	A809	haramaki@
宮谷 真人	教授	6761	A814	miyatan@
森田 愛子	教授	6770	A705	amorita@
森永 康子	教授	6767	A709	morinagay@
湯澤 正通	教授	6773	A702	yuzawa@h
梅村 比丘	准教授	6766	A710	umemura@
尾形 明子	准教授	6763	A711	aogata@
上手 由香	准教授	6774	A810	kamite@
清水 寿代	准教授	6887	B711	hisayos@
田村 典久	准教授	6803	A806	tamura65@
中尾 敬	准教授	6760	A815	tnakao@
中島 健一郎	准教授	6772	A701	kennakashi@
安部 主晃	助教	6775	A704	kabe@
神原 利宗	助教	6280	A807	tkambara@
難波 修史	助教	4418	B103	nshushi@
神原 広平	助教	6765	A805	k-kambara@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））